



109周年と運動発表会

校長 西澤 武

先日の11月15日(日)、本校は創立109周年を迎えました。前日の給食では、「赤飯給食」となりみんなで109周年をお祝いしました。来年はいよいよ「110周年」を迎えます。何とか新型コロナウイルス感染も落ち着き、地域の方々と一緒にお祝いできればと願うばかりです。

さて、体力は、人間のあらゆる活動の基本となるものです。健康な生活を送る上でも、物事に取り組む意欲や気力といった精神面の充実にも深く関わっており、健全な発達・成長を支え、より豊かで充実した生活を送る上で大変重要です。子供の時期に活発に体を動かすことは、成長・発達に必要な体力を高めるだけでなく、スポーツに親しむ身体能力の基礎を養い、病気から身体を守る力を強化し、より健康な状態にしていくことにつながります。

本校では例年、春に運動会を開催してまいりましたが、新型コロナウイルス感染防止のために今年度は運動会を断念せざるを得ませんでした。しかし、今年も子供たちが体を使って楽しむ行事を何とか実施できないものかと知恵を絞った結果、「表現」と「団体競技」に絞った「運動発表会」を開催させていただきました。日頃の体育で培った成果を発表するとともに、学年が力を合わせて取り組むことで、協力することの大切さや、子供同士の関わり方を学びながら、体を動かすことの楽しさや気持ちよさを味わうことを目的にした体育的な学校行事です。運動会よりも規模は小さくなりましたが、学年や学級の目標はもちろん、子供たち一人一人にも目標をもたせ、実りある成長の機会として開催できたと思います。

コロナ感染防止のため、二学年ずつの発表会とさせていただき、保護者の皆様には自分のお子さんが参加している時間だけ、立ち見で応援というスタイルになりましたが、頑張る子供たちにたくさんの声援を送っていただきありがとうございました。

ところで、最近、全国規模で新型コロナウイルス感染者が増加傾向にあるようです。ここで心配なのが差別や偏見、いわゆる「コロナいじめ」です。いじめは絶対にいけないということは普段なら大人も子供もわかっています。しかし、ウイルスのような見えない敵が現れると、特定の対象(例えば感染してしまった人や治療している人)を見える敵と見なし、偏見や差別で遠ざけることでつかの間の安心感を得ようとするのが、今回のコロナいじめの構造です。感染を拡大させないように頑張っている医療従事者の皆様、高齢者や小さな子供のいるご家庭、社会・日常生活を支えている方々、現在治療を受けている方とそのご家族、この事態に対応している全ての方々をねぎらい、敬意を払いつつ、引き続き予防に努めていきましょう。